

# WBT (Web Base Training) インストラクショナル・デザインについて

## 説明資料

2020年7月

株式会社 キャリア・フォース

## ■ 本資料について

この資料は、WBT(Web Base Training)インストラクショナルデザインの説明資料です。

内容：

1. はじめに 両利きの経営と学習
2. 学習環境の変化
3. インストラクショナル・デザインとは
4. WBTにおけるインストラクショナルデザイン
5. WBTインストラクショナルデザイン研修体系

※「WBT」：インターネットやイントラネットにより、教育コンテンツを配信、受講できるトレーニング手法(出典 ASTD)、Eラーニング、マイクロラーニング、オンラインライブ研修など

# 1. はじめに 両利きの経営



入山 章栄

早稲田大学ビジネススクール教授

基本コンセプトは「まるで右手と左手が上手に使える人のように、『知の探索』と『知の深化』について高い次元でバランスを取る経営」。

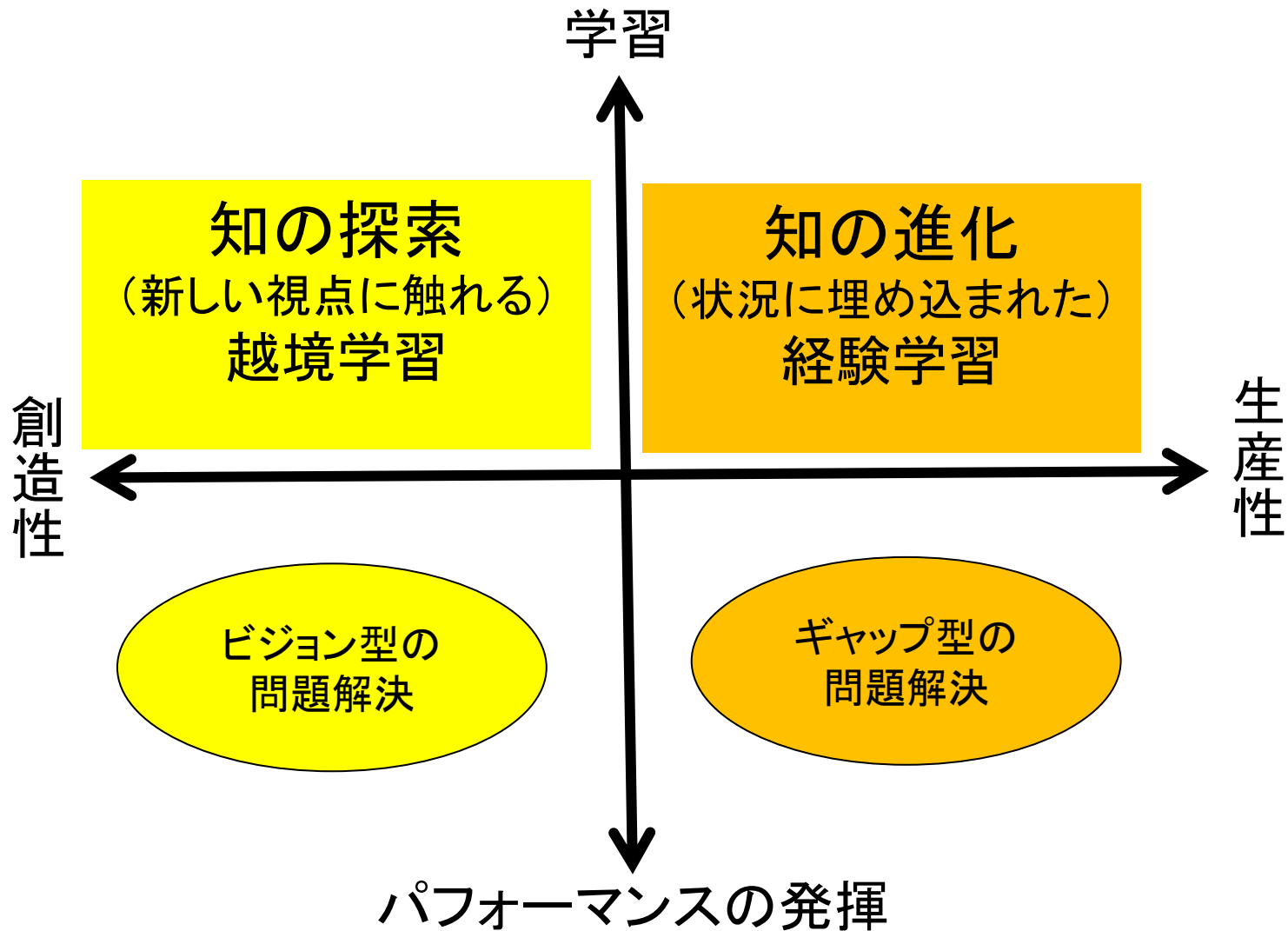
「Exploration(知の探索)」

イノベーションの源泉の1つは「知と知の組み合わせ」。知を組み合わせることで、新しいビジネスモデルや商品・サービスを生み出していくことです。「知の範囲」を広げることが望まれる。

「Exploitation(知の深化)」

生み出された知からは、当然ながら収益を生み出すことが求められる。そのために企業が一定分野の知を継続して深めることが望まれる。

## ■ 学習とパフォーマンスの発揮

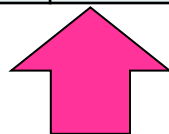


## 2. 学習環境の変化

- 人々のパフォーマンス(行動の量と質)を望ましい方向へ導くこと
- 人々は職場の風土や、上司・先輩の言動にも影響され態度や知識を身に着けてきた
- 働き方は、オンライン化がさらに進む
- 変化した環境の中で、企業研修をはじめ個人の学習支援やパフォーマンスの向上の方法論そのものが変わる
- 集合研修も、従来の進め方を単純にオンライン研修化していくのではなく、パフォーマンスを向上させるWBTのインストラクショナルデザインの視点が必要

## ■ 企業内教育テーマ オンライン化の課題

企業にとっての 主な教育テーマ	対面(オフィス)中心では	オンライン(遠隔)中心へ	学習分野の取組み
目的、ビジョン、 理念、価値観の浸透	周りの人の言動、職場風土からの影響を受けてそこから形成してきた。	体系的に理念、ビジョン浸透プログラムを提供することが重要となる。	価値交流学習の場づくり
生産性(問題解決力)の向上	リーダー(上司、先輩)が、職場で仕事を通じてメンバーの成長を支援してきた。	自己管理に向けた、個別の動機付けが必要となる。 個人学習の支援や振り返りが重要となる。	経験学習のサポート
創造性(イノベーション)の発揮	会社が場や役割を与え、プロジェクトから生まれるものを期待してきた。	個人の時間、エリアが広がり、多様な人々のかかわりがさらに期待される。	越境学習のパーソナル化



企業内教育はそれを促進する役割として提供されてきた。

### 3. インストラクショナル・テクノロジー & デザインとは

「インストラクショナル・デザイン・テクノロジーとは、学習のための“プロセスとリソース”（※学習プログラム）を設計、開発、活用、管理、および評価するための理論と実践の分野である。

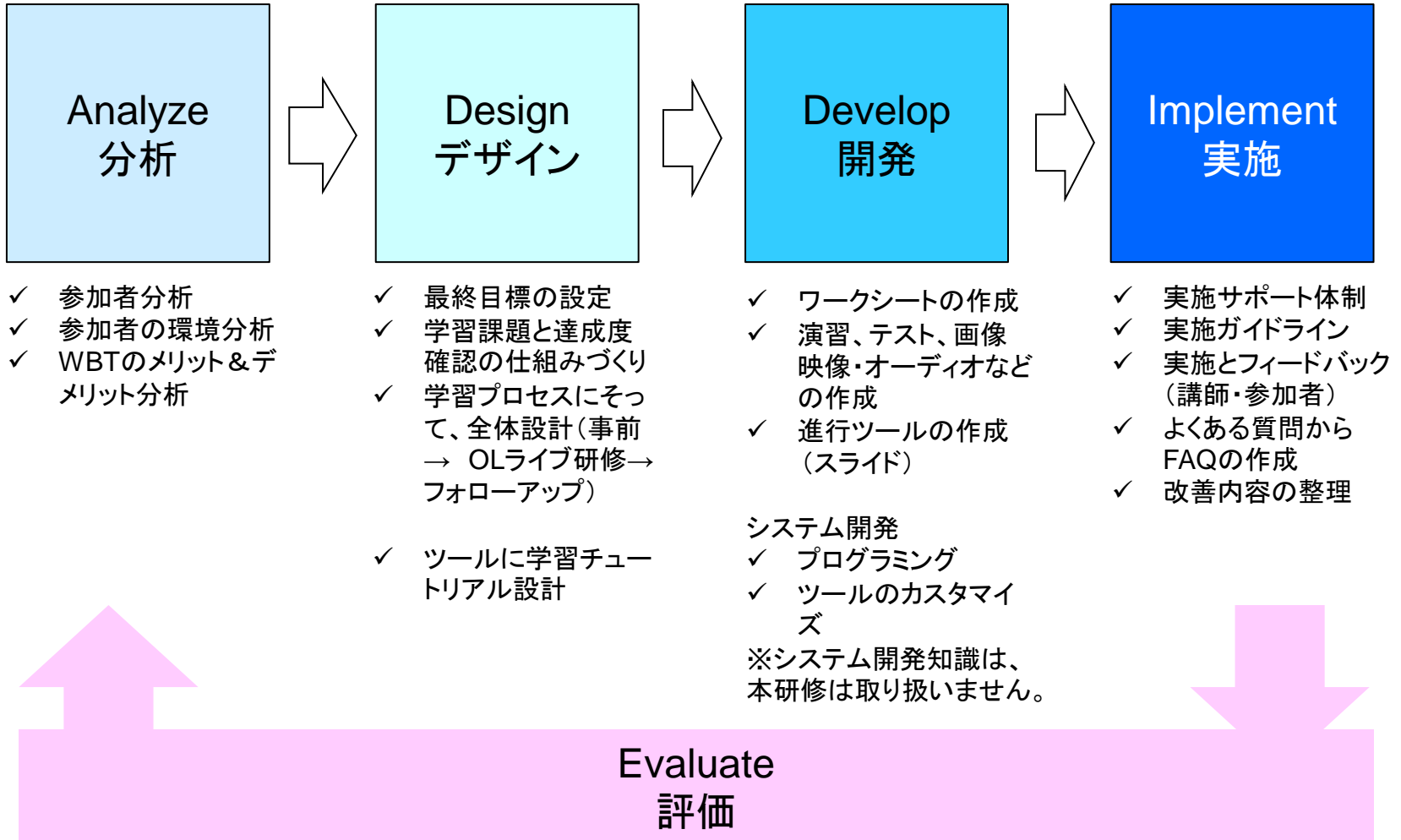
人が一番効果的かつ効率的に学ぶための学習環境と学習プロセスを設計・開発する専門技術を言う」

(AECT: 1994 Definition)

※学習プログラムとは、「人の意識・言動に影響を与える為に設計された一連の学習の流れ」と定義されます。

# 4. WBTにおけるインストラクショナル・デザイン

ADDEEモデルをWBTで考えると





## ■ WBT (Web Base Training)による学習

1. 個人が好きな時に個別に行う  
Eラーニング、マイクロラーニング、アセスメントなど
2. ある時間に集まって個人で行う  
1to1面談、パフォーマンス・コーチングなど
3. ある時間に集まって集団で行う  
参加型ウェビナー※、オンラインライブ研修、グループコーチ、ワークショップなど

## ■ WBT実施アイデアの例

学習プロセス	実施アイデアとして考えられるもの	WBTの活用例
①動機づけ	(会社・上司から)ビジョンを伝える、期待の伝達など	ビジョンをイメージさせる映像
②注意	事前アセスメント、事前課題など	WEBアンケート、事前WEB面談
③習得	研修、フォローアップ研修、行動計画の作成など	オンラインライブ研修
④再現	上司へのプレゼンテーション、アクションプランの実行など	上司向けウェビナー配信、WEBアンケート
⑤転移	職場での観察指導、同行訪問など	現場データモニタリング、WEB観察
⑥強化	面談、フォローアップコーチングなど	1 to1 コーチング

## 5. WBTインストラクショナル・デザイン研修体系

### 基礎(8時間)

6名迄



### アドバンス(4時間×2)

4名迄

研修企画の方々、研修講師経験者でWBTとインストラクショナルデザインに興味関心のある方なら、どなたでも可。

内容:WBTとインストラクショナルデザインの概要を理解し、その上でラーニングモデルに沿ってWEB(オンラインライブ研修)で実施する研修設計と進め方を演習を通じて学ぶ。

- 基礎、アドバンス研修はすべてZOOMを使ったオンラインライブ研修で実施いたします。
- ZOOMの基本操作の指導は行いません。パソコンでの参加を基本といたします。
- 表記の時間には休憩時間を含みません。表記は各研修の最大参加人数です。

基礎の受講者済み者で、ご自身の研修作りに取り組んでいる方。

内容:WBTとラーニングモデルに沿って、オンラインライブ研修の質を高める方法論である、事前課題、アセスメント、演習の作り方、フォローアップ等を学ぶ。

### 実践コンサルティング

内容:WBTとラーニングモデルに沿って、自社の研修開発や研修内容の質を高める担当者や事業者向けに個別指導を行う。現在実施のオンラインライブ研修の質を上げるために、前後の学習設計(事前課題、アセスメント、フォローアップ)を実践的に助言・指導する。

※実践コンサルティングは参加希望者と相談の上、達成目標、実施回数、助言内容などを合意の上、実施いたします。

## 基礎研修の概要 8時間(2回に分けることが望ましい、13時~17時半×2)最大 6名迄

テーマ	狙い	ツール
はじめに WBTのメリットとデメリット (60分)	クラスに参加するために、チェックイン、オリエンテーションを行う。参加者の期待、自己紹介、研修目的、目標、進め方とツールの使い方を明示する。講師に求める要素を理解する。WBTとなにか、バリエーションを知りメリット・デメリットを理解する。	全体ワークシートの配布 スライドによる説明
アダルトラーニングの原則とWBTの活用(60分)	アダルトラーニング(大人の学習)の原則を知り、WBT研修でどのように活用するかを理解する。	WBT活用シート
インストラクショナルデザインの基礎 (90分)	インストラクショナルデザインの分析フェーズにおいて、WBT特有の課題を考える。	参加分析・学習環境分析シート
全体設計の考え方 (60分)	参加者の達成目標(事前→事後)から、事前学習やフォローを含めた全体設計を考える。アセスメント質問のタイプを選択するなど、参加者の達成度を測る仕組みを理解する。	学習課題に合わせたアセスメント
ラーニングモデルのオンラインライブ研修へ応用(120分)	ラーニングモデルに沿って、オンラインライブ研修を行うツールとして、チャット、ディスカッションルーム、ホワイトボード、ポーリング(投票)等の活用を考え研修設計を行う。(演習:リーダーシップ、問題解決)効果的な研修ツールの使い方を理解する。	演習シート
オンラインライブ研修の企画と実施(60分)	ロールプレイング、シミュレーション、テストインタビュー、などの演習の特徴を理解し、オンラインライブ研修での活用方法を理解する。	テストインタビューシート
まとめ (30分)	本日の内容の振り返り、全体を通じた質疑応答 今後の課題とアクションプランの作成。チェックアウト。	アクションプランシート

